

# 医学一般 ~20◆

科目コード ● CC3106

担当教員 ● 柏木 誠 (左)  
澤田 悦子 (右)



4 単位 | R or SR | 2 年以上

※この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。

※スクーリングを別教員（井手貴治先生・山本邦男先生・佐藤英仁先生）が担当いたします。

## 科目の内容

日本人の死因は、食生活や運動、嗜好など、日常生活上の不健康な生活習慣の積み重ねによる生活習慣病と深くかかわっています。また、加齢に伴う様々な体の変化は、疾病を生じやすくします。

社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは不可欠ですが、私たちがより健康的に生活する上でも、人体や老化、疾病などについて理解することは大切です。福祉関係職種に従事することを目指している人は、利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。

本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解した上で、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解します。さらに、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を、「医学一般」として学びます。

単位修得、国家試験や仕事のためだけではなく、学んだ知識を日々の生活に生かす、生きた勉強を心がけてください。

## 到達目標

- 1) 加齢に伴う生理機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など）との関連について説明できる。
- 2) 高齢者に多い疾病および症状の特徴について説明できる。
- 3) 免疫（特に液性免疫）について説明できる。
- 4) 脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と、主な原因疾患について説明できる。
- 5) 生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。主な生活習慣病について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。
- 6) 介護保険の特定疾病と、高齢者に多い神経疾患と精神疾患の特徴を説明できる。

※スクーリング受講者は『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』「保健医療サー

ビス論」欄の「到達目標」もご確認ください。

## 教科書

- 1) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病(第3版)』中央法規出版、2015年(第3版でなくても可)
- 2) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス(第4版)』中央法規出版、2014年

(最近の教科書変更時期) 2015年3月

## 在宅学習15のポイント

『レポート課題集A(社福・精保指定科目編)』『医学一般』参照

## レポート課題 すべて【説明型レポート】(各200字以上400字以内)

※ p.7 記載の注意(1)~(5)をよく読んでください。

1 単位め	<ol style="list-style-type: none"><li>① 液性免疫について説明せよ。リンパ球の働きと関連させて記述すること。</li><li>② 加齢に伴う生理機能の低下について説明せよ。特に、肺と腎機能低下について考察しておくこと</li><li>③ 老年症候群について説明せよ。</li><li>④ 高齢者が脱水症状になりやすい理由を述べよ。</li></ol>
2 単位め	<ol style="list-style-type: none"><li>① 腎臓の働きについて説明せよ</li><li>② 慢性腎臓病(CKD)について説明せよ。また、CKDと加齢や他の疾患との関連について考察せよ。</li><li>③ 生活習慣病の定義を述べよ。主な生活習慣病を挙げ、生活習慣と関連させて説明せよ。死因との関連について考察しておくこと。</li><li>④ メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)について説明せよ。糖代謝異常との関連を記述しておくこと。また、特定健診の必要性についても考察しておくこと。</li></ol>
3 単位め	<ol style="list-style-type: none"><li>① 中枢神経について説明せよ。高次脳機能および、高次脳機能障害との関連について考察せよ。</li><li>② 認知症の定義と症状、および、認知症の原因疾患について説明せよ。</li><li>③ 高齢者がかかりやすい神経疾患について述べよ。とくに、介護保険の特定疾病に指定されている疾患については、説明を加えておくこと。(認知症の説明は省いて良い。)</li><li>④ 高齢者に多い精神疾患について述べよ。</li><li>⑤ 高齢者に多い疾患を挙げ、簡単に説明せよ。(生活習慣病や、精神・神経疾患と重複する疾患については、省いてよい。)</li></ol> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>

## 4 単位め

- ① 感染症および、日和見感染症について説明せよ。感染症予防について考えておくこと。
- ② 日常生活動作（ADL）の語句を、簡単に説明せよ。
- ③ 介護保険の第2号被保険者および、特定疾病について説明せよ。（すでに他の課題で説明している疾患については、疾患名を挙げるだけで良い。）
- ④ 廃用症候群の定義を述べよ。また、廃用症候群を起こしやすい身体諸器官を挙げよ。
- ⑤ 高齢者が寝たきりになる原因について考えよ。

※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

- 注意** (1) 年度により問題が異なり、また、問題文も長いので、レポート用紙の「課題」欄には、「2015年の問題に解答する」のように、課題の年度のみを記入し、問題文は記入しないでください。「解答欄」にも、問題の番号のみを記入し、問題文は記入しないでください。
- (2) 各問に対して、200字以上400字をめやすに、単位毎に、1,600字以上2,000字以内になるように、簡潔明瞭にまとめてください。定義を最初に記述し、詳細や例はその後に記述するとわかりやすくなります。
- (3) 教科書や文献をそのまま写すのではなく、自分自身の言葉で、要点をまとめなおしてください。
- (4) 解答として何が求められているのかを考えて、求められた解答を記述することが大切です。
- (5) 解答欄に、不必要に大きな余白はとらないでください。

(平成25年度以前履修登録者) 2014年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2013』記載の課題でも2015年9月末までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

## アドバイス

「医学一般」では、疾病や障害についての基本的な理解をします。

慢性期や終末期の医療は、医療関係職種と、福祉関係職種とのチームアプローチによって、在宅で展開されることが多くなってきています。特に、福祉関係職種に従事することを目指している者は、利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。

テキストを、まず一通り読んで、全体的に理解してから課題に取り組んでください。同じ疾病が何か所かに分かれて記載されていることがありますが、総合的に関連づけられるような学び方が大切です。

教科書は簡単に記述してあるため、理解し難いと感じる人も多いと思います。教科書では理解が不十分だと感じたら、高校の教科書を復習したり、他の文献で調べたりすることをお勧めします。

NHK 出版の「きょうの健康」は、新しい知識を得るのに良い雑誌です。

医療制度や介護保険制度、障害者福祉制度など、改正されることが多い制度については、新聞などのニュースに注意して、ふだんから学ぶ姿勢を心がけてください。COPD やサルコペニアなど、最近話題になることの多い疾患にも関心を持って生活してください。

### 1単位め 解説

人体の構造と機能は、老化や疾病を理解するための基礎知識として重要です。課題にないところも熟読しておいてください。

老化について学ぶことは、高齢者の病気や病気予防を理解することにつながります。加齢に伴い顕著に機能低下する器官と、比較的機能低下せずに高齢まで維持され続ける機能に分けて考察してください。

### 2単位め 解説

腎臓は、血液の浄化以外にも、生命を維持するための様々な機能を持っています。内臓の脂肪細胞は、さまざまな生理活性物質を分泌しています。内臓脂肪が蓄積すると、分泌異常になるため、高血糖、高血圧、動脈硬化などを発症しやすくなります。生活習慣病が、相互に影響しあって増悪することに留意してください。

日本人の死因の第3位は、2011年から肺炎になっていますが、多くは生活習慣病と関係しています。疾患名や生活習慣との関係を具体的に考えてください。

### 3単位め 解説

高齢者に多い神経疾患や精神疾患は、神経系の疾患です。特に脳の機能について理解することで、認知症や高次脳機能障害の理解が深まります。高度で複雑な中枢神経の機能を丸暗記する必要はありませんが、大脳皮質、脊髄、中脳、海馬、扁桃体など、疾病を理解するうえで頻出する部位については確認しておいてください。

### 4単位め 解説

どのような人が日和見感染症を発症するのか考えてください。

高齢者に多い疾患や、特定疾患（難病）、特定疾病（介護保険）についても理解しておいてください。疾患名だけでなく、病理・病態や、治療法を調べて、理解を深めておいてください。高齢者は非定型的な症状を呈することが多いなど、高齢者の疾病の特徴についても考察しておくの良いレポートになります。高齢者では、寝込むような基礎疾患がなくても、簡単なきっかけで廃用症候群になったり、寝たきりになったりすることを理解し、予防について考えてください。

## レポート 評価基準

- ① 問われていることを理解し、求められていることに応えている。即ち、レポートを読めば、逆に問題がわかるようなレポートになっている。

- ② 教科書などの丸写しではなく、納得したうえで自分の言葉でまとめている。
- ③ 要点を、簡潔に、読み手にもわかるようにまとめている。
- ④ 学び方がわからないと思われる場合は、再提出を求める。助言を参考に書き改めて、再提出したものを評価する。

## 科目修了試験 評価基準

- ① レポートをまとめる中で学んだ知識が、身についている。ただし、年代や細かい数字などを暗記する必要はない。
- ② 教科書などから学んだ知識が感じられる答案であること。一般常識や、仕事上で得た知識だけでは不十分なので注意する。
- ③ レポート添削の「講評・指導」などの助言を考慮している。
- ④ web 試験は、持ち込みなので、採点は厳しくなる。「レポート課題を理解していない」「教科書を試験前に読んでいない」と判断されれば、不合格とする。

## 参考図書

人体の基礎知識の参考書として

貴呂富貴子ほか著『シンプル生理学』南江堂、2008年

黒沢美枝子ほか著『生理学』(コメディカルのための専門基礎分野テキスト) 中外医学社、2012年

中野昭一編『図説 ヒトのからだ』医歯薬出版、2001年

鈴木庄亮ほか著『シンプル公衆衛生学』南江堂、2009年

『NHK 今日健康』日本放送協会出版、月刊誌

別冊 NHK 今日健康シリーズ (『認知症』、『メタボリックシンドローム』、『うつ病』、『高血圧』など)

山田正仁ほか著『認知症のベストアンサー』主婦と生活社、2012年

Newton 別冊『脳と心』株式会社ニュートンプレス、2012年

田沼久美子ほか著『しくみと病気がわかるからだの事典』成美堂出版、2007年

小安重夫ほか著『免疫学マスター』羊土社、2007年

## スクーリング受講者へのご注意

この科目のスクーリング(12コマ)は、平成22年度より、新カリキュラム「医学一般」(6コマ)「保健医療サービス論」(6コマ)との合併授業を行います。また、スクーリング受講者は『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』を所持していない場合、購入が必要です。